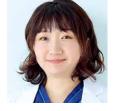
みやぎの 国際情報誌 (隔月発行) 2022.10

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

# 地域医療で活躍する

# 中国人医師



ジャウエンティン **贾 雯 婷 さん** 中華人民共和国 遼寧省瀋陽市出身 仙台市在住 芳縁在宅診療所 院長 芳縁株式会社 代表取締役社長

#### ---まずは、来日されたきっかけや日本での生活を教えて下さい。

中学受験の際、外国語の選択肢が英語、ロシア語、日本語とあり、私は日本語クラスを選びました。中高で6年間日本語を勉強しました。熱意にあふれていたせいか高校生の頃にはドラマの東京ラブストーリーやロングバケーションなどが理解できるようになっていて、授業のほうが簡単でした。

大連にある大学へ進学し、金融を専攻しつつ日本語の勉強を続け、3年生の時に京都の立命館大学の交換留学生として来日しました。大連の大学で出会った日本人留学生との遠距離恋愛が来日の最大のきっかけとも言えます。来日後、コンビニでアルバイトをしましたが、当時は外国人店員がほとんどいませんでした。採用を決めた店長は、私が外国人であることより関西弁に対応できるか心配だったようで、面接で店長からボールペンを見せられ「これなんぼ?」と質問されました。「なんぼ」の意味は知りませんでしたが、値段を聞かれていると状況から推察できて答えられたことが決め手だったようです。

# ――その後、2005年に東北大学の医学部を受験されたのはどんな理由からですか。また学生生活はいかがでしたか。

交際していた人との結婚を計画していましたが、私が自立していることも重要だと考えていました。信頼する知人に、医師は尊敬され安定した職業だからと医師になることを勧められ、自分でも医学部へ進学できるか半信半疑でしたが、大学入学共通テストの留学生版である日本留学試験を受け、好成績を得ることができました。通常は、留学生枠を持つ複数の大学へ2次試験の願書を送るのですが、私は魯迅が医学を勉強していた仙台に「落ちたら中国に帰ろう」と思えるくらい何か深い縁を感じ、東北大学医学部だけに願書を出しました。

合格後、京都を離れる直前、偶然バスで乗り合わせた見知らぬ女性から「どこの国から来たの?」と声をかけられ、出身や進学先のことなどを話したところ、降りる直前「頑張って」との言葉とお金をいただきました。日本で縁を感じる出会いや応援・支援していただいたことは数多くありますが、これは忘れられません。今も心の支えになっています。

仙台では、バイトと卓球の部活動にも励みました。日本の「部活動」には、漫画のスラムダンクを読んで以来憧れていて、そこで先輩、後輩とのつながりやチームワークで試合に勝つことへの考え方を知り、また仲間との本音トークを楽しむなど、医学生の青春を体験しました。



ジャさんと在宅治療を受ける患者さん

5,6年生の臨床実習中、ある在宅診療のクリニックで、医師が患者さんの生活を実際に見て、関係を深め、その人が望む治療をする様子を見て目から鱗が落ちる思いでした。

実習を続ける中で、一瞬の迷いも許されない現場で、責任を持って真剣に患者さんに向き合う脳神経外科医の意志の強さを目の当たりにして、「脳外科医になる」と決心し、周囲に宣言しました。医学部受験同様、周りから難しいよと言われましたが、なりたい気持ちが強く、「これまでも自分は高い山を乗り越えた経験がある」と発奮しました。医師免許の国家試験は、以前のように何度も問題を解いて納得するまで繰り返す時間がなく、25分集中と5分休憩のサイクルで短期間かつ集中的に暗記して、試験に臨みました。

# ――2011年に医師免許を取得されてから、2020年11月に芳縁在宅診療所を開所するまでの経緯や現在の様子を教えてください。

東北各地の脳神経外科で数年間勤務したのち、東北大学病院に勤めていた時に、目指していた専門医となるため脳神経外科の専門医認定試験を受け、合格しました。充実した日々を送っていましたが、2020年頃自分の生き方に対して違和感を抱くようになりました。模索する中で「起業したい」と考えるようになり、「やりたいことはゼロから作り上げなければならない!」と、決心してから2か月後の2020年11月に在宅診療所を開院しました。在宅診療は、通院が困難な方やご家族の通院介助が難しい方を対象に定期的にご自宅を訪問し、治療や経過観察を行います。開業後はたくさんの困難に出会いましたが、現在は医師が3人、スタッフが13名になり、チームワークを活かして治療にあたっています。今後はオンライン診療も本格化していきたいと考えています。

# ――日本で働く外国人として辛いと感じること、逆に強みだと思うことはありますか。

今はもう外国人であることにコンプレックスはなく、むしろ「外国人の私ができるのだから、あなたも頑張ればできるよ」と励ますことができて、メリットだと思っています。同時に中国語や英語で往診や治療ができることが、私の強みです。自立を目指したときから、「中国と日本の架け橋となりたい!」と公言してきましたが、今はそれだけではなく、「自分を必要としてくれる人に応えたい!」と日々患者さんに向き合っています。



#### シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



## 第3回 小学校での支援 田村由香子さん

みなさん、こんにちは。私は仙台市の小学校で教員として仕事をしてきましたが、縁あって、市内の小学校で日本語学習室を 5 年間担当した経験を持っています。今回は、小学校に在籍している外国につながる子どもへの学校の支援についてお話ししたいと思います。

宮城県内では、日本語の支援を必要としている子どもが近年増えてきています。日本語が全く話せない児童が突然編入学してくることはめずらしくありません。編入学が分かると、学校側はたくさん知恵を出し合って、支援の仕方を模索します。どの学年のどの学級に所属するのか、だれが担任になるのか、日本語や母語の指導協力者を準備できるのかを、短期間で決めなければなりません。日本語の支援を必要とするお子さんであった場合は日本語の指導計画を作成し、どのように指導していくかを考えることも必要です。その個別の支援をどう進めるかというと、昨今の教員不足もあり、外部からの協力は大きな助けになります。学校側は、そのお子さんが日本の学校生活に早く慣れて、日本語で仲間とコミュニケーションを取ったり学習したりできるようになることを目標としています。指導方法については、今年度から県の事業で派遣されるアドバイザーの助言を受けることができます。MIAなどを通じて、教材を準備することもできます。

受け入れる学級での生活も、子どもにとっては大切な場所や時間です。担任は、新しい子どもが入ってきた場合、一日でも早く学級の生活に慣れて、楽しい学校生活を送ってほしいと考え、いろいろな配慮をします。また、家庭との連携も大切で、言葉の壁があれば、Google 翻訳やポケトークを活用して、できるだけ連絡を密に取っていきます。この、学校と児童と家庭、そして地域や教育委員会との連携をバランスよく取ることが求められるのです。子どもに確かな力が育つように、学校全体で子どもを育てていけるように、県の事業を進めることが今後の課題となっています。

# 多文化 なトピック

### 夏休みこども日本語教室 ~国際交流協会 ともだちin名取による取り組み~

名取市に夏休み直前に日本語がほとんどできない兄妹が中学校と小学校に編入してきました。日本語指導ができる支援者の緊急募集ということで、MIAから地元で日本語講座をしている「国際交流協会ともだちin名取」に呼びかけ、4人の方を学校にご紹介しました。更に、同会事務局長より、夏休み中の子どもたちを心配し、必要であればできる範囲でお世話したいと提案があり、学校、保護者、公民館の協力のもと全5日間の夏休み中の活動が始まりました。夏休み明けから学校で学習支援を行う4人が講師となり、休み明けにその子たちが学校で困らず、少しでも学校生活をスムーズに開始できることを目標に、挨拶、時計の読み方、体や身の回りの物

の名前、曜日、ひらがなの読み書きなど、カードを見せたり、使ったり、歌を歌うなどしながら、楽しく何度も繰り返し練習しました。また、日本人小学生2名も参加し、ロールモデルとなったことは、なによりも学習の手助けになったようです。毎回教室終了後には、ミーティングをして次の計画を練り上げていきました。講師の4人も、子どもへの日本語指導、学校での学習支援は初めてで手探り状態でしたが、夏休み中の活動でその子たちの性格や日本語の状況を知ることができ、学校での支援活動を進めるにあたり基礎となっていると実感しているとのことでした。



# ライデラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

## 「日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイドブック 宮城 2022」

この進路ガイドブックは、外国人の子どもと保護者に役立ててもらうため、 多言語(英語、中国語、韓国語、タガログ語、スペイン語、ベトナム語、ネパー ル語と日本語)で日本の学校制度、入学試験の仕組みを含めた高校に関する 様々な基礎情報を紹介しています。

多言語のガイドブックは Web サイトからダウンロードできます。

https://shinro-miyagi.jimdofree.com/

郵送をご希望の方は、MIA までお問い合わせください。

また、入学試験の日程などの一覧表を5言語で掲載していますので、併せてご覧ください。





## ブラジル宮城県人会 上利会長が来県しました



ブラジル宮城県人会(※ブラジルに移住した宮城県出身者等が、親睦や交流を深める等の目的で結成している団体)会長の上利エジガールさんが、JICA草の根技術協力事業を受託している株式会社ゆらリズムの研修に参加するため来県しました。

研修期間のお忙しい中ではありましたが、7月22日(金)にMIAの三坂達也専務理事兼事務局長とスタッフが上利会長にお会いし、県人会の様子を伺うことができました。上利会長は、平成13年に宮城県海外技術研修員として宮城県で研修を受けてから、21年ぶりに来県されたとのことで、日本語で心のこもった挨拶をしてくださいました。その挨拶を御紹介いたします。

「みなさん、こんにちは。私は宮城県人会の会長として、今、宮城県にいることに、感激しており、感謝の気持ちでいっぱいです。 研修で、仙台に来ると知った時、とても嬉しかったです。そして、感謝の気持ちを述べる機会が与えられてとても嬉しいです。

皆様ご存じと思いますが、ブラジル宮城県人会の会員は年々少なくなっております。さらに、残念ですが、先月も大切な移住一世の会員が亡くなりました。移住一世の会員は、宮城県人会の歴史そのものですので、大変悲しいことです。

県人会の会員が増えないので大変ですが、現在、他の県人会等と連携して活動しています。農協婦人部連合会やボーイスカウトと一緒に、「青葉祭り」を月に2回開催したり、連合会のイベントに宮城県人会として、日本食のお昼ご飯を出したりしています。また、埼玉県人会や東京都友会と一緒に、屋台祭りを年に2回開催しています。今年の「日本祭り」には、東京都友会と一緒に参加し、3日間の祭りで575キロの唐揚げを売ることができました。その他、サンパウロ市で開催された今年の「七夕祭り」では、飾りと短冊の展示を行いました。

現在、私は、自分でも信じられませんが、仙台でゆらリズムの研修に参加させていただいております。ゆらリズムの「メソッド」というのは、「日本の介護予防制度に沿って高齢者が元気で、生きがいをもって長生きすること」です。私の将来の夢は、県人会の中でデイサービスを作ることです。

私たちのご先祖様が、ブラジルで取り組んだこと、歴史そのものが終わらないように、継続できるように頑張っております。昔は、県人会の行事にたくさんの方々が参加し、にぎやかな雰囲気で食べたり、飲んだり、笑ったりして、とても感動したことをよく覚えています。私は、その思い出があるからこそ、ブラジル宮城県人会のために頑張れます。

今まで、宮城県人会との交流を大切にしていただいて、ありがとうございます。心から 感謝しております。」



MIA三坂専務理事兼事務局長(左)と上利会長(右)

MIAは、「財団法人宮城県海外協会」(昭和30年設立)を前身として設立され、以来「県費留学生受入事業」、「海外技術研修員受入事業」、「海外移住高齢者里帰り事業」、「海外移住敬老金支給事業」を行ってきました。現在は、在外宮城県人会の健全な運営に資するための助成事業を行っております。今回、上利会長にお目にかかって県人会に対する気持ちや将来の夢を伺うことができ、改めて、県人会とMIAの「歴史」と「繋がり」を感じることができた貴重な機会となりました。

## 多文化 なトピック

#### 大学生と外国人技能実習生との交流 in 石巻

7月29日、石巻専修大学において、大学生と外国人技能実習生・特定技能外国人との交流が行われました。同大学の「国際体験研修」の時間に、市内企業に勤めるベトナム人技能実習生・特定技能生5名と受入企業担当者、石巻市復興企画部地域振興課職員、そしてMIA職員がお伺いしたものです。

はじめに基礎情報として、市地域振興課から石巻市における外国人の在留状況や多文化共生に向けた取り組みについて、次にMIAから外国人技能実習制度・特定技能制度の概要について説明しました。

続いて、技能実習生・特定技能生から自己紹介をしたあと、グループに分かれて懇談の時間となりました。普段の生活の様子、仕事の様子、よく行く地元の店のことなど、どのグループも話が弾み、なかには予定の時間を超えて話し込む姿も見られました。

参加した技能実習生、特定技能生は「大学生はみんなフレンドリーで、とても楽しく話すことができました」「今回の交流に参加して、もっと日本語を学ぼうと思いました」といった感想を述べてくれました。

同じ市内で生活していながら、普段は全く接点のない両者にとって、今回の交流は、お互いのことを知る貴重な機会になったようです。



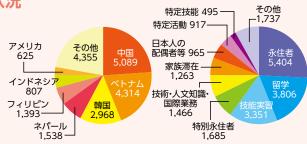
# 多文化 なトピック

#### 宮城県内の在留外国人の状況

宮城県の在留外国人は、2021年12月末現在21,089人でした。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年に続き減少となりました。

国籍・地域別では中国、ベトナム、韓国と続いており変化はありませんが、 どの国も前年度より減っています。特に最も多かった中国が2019年と比べて1,000人以上、2020年からは560人ほど減っています。

在留資格別では、前年の2020年と同じく永住者の人数が最多です。仙台市内の大学、日本語学校、専門学校に多い留学生は、2020年は5,111人でしたが2021年は3,806人となりました。また、県内の各市町村に散在す



在留資格別

国籍·地域別

数字は2021年12月末現在、法務省在留外国人統計から

る技能実習生(日本で働き、技能等の修得・習熟・熟達を図るもの)も減少しています。一方、特定技能(国内人材を確保することが困難な状況に ある産業分野において、一定の専門性・技能を有する外国人を受け入れるもの)が495人と、前年の109人から大幅に増えています。

2022年は留学生および技能実習生の入国が可能になりましたので、推移に変化が生じるでしょう。

## みやぎの国際活動団体

#### 美里町国際交流協会(MIFA)

美里町国際交流協会には、10 代後半から 20 代の MIFA youth があります。このユースのメンバーからコミュニティ活動「茶の間 CHANOMA」が提案され、5月から始まりました。他者との接触が減っている昨今、在住外国人のみなさんに友だちを作る場所を提供し、参加者の出身国の文化や日本での生活について日本語で話しながら、交流の機会を増やすことが目的です。これまでに英語を教えてい

る人や農業実習生が参加しています。初めて参加したときに、ギター演奏をして自己紹介してくれた参加者もいました。活動内容は試行錯誤な状態ですが、日本語がまだ話せない参加者から「日本語を学びたい」とか、他の参加者からは「花火を見たい」といった声が上がっています。将来は、参加者が主体となって国際交流のイベントを開催できたらと考えています。「茶の間 CHANOMA」は、小牛田駅近くにある駅東地域交流センターの和室で毎月第3土曜日午後に開催しています。参加は無料です。



Q Facebook: 美里町国際交流協会 -MIFA、MIFA youth

# サポーターの声

## スワスティカ ハルシュ ジャジュさん MIA外国人児童生徒サポーター (東北大学留学生)



2020年6月から日本語指導の非常勤講師として県内に住むパキスタン人の小学生のサポートを始め、現在はさらに MIA外国人児童生徒サポーターとして県内の高校生にオンラインで日本語指導をしています。私の母語はヒンディー語で、サポートしている児童生徒はウルドゥー語を話します。両言語は読み書きが異なるものの、非常に似ているため会話はできます。

私の祖父は常々「人生において一番大事なのは、ワクワク・ドキドキさせてくれるものやことだ」と言っていますが、私にとってそれは日本語です。サポートしている彼らにも日本語の特徴を知って楽しんでもらいたいという気持ちでお手伝いしています。とはいえ、ウルドゥー語、英語と日本語の切り替えが難しく、教えていると単語が混ざってしまい困ることがあります。

理解を深めるため、彼らが学んだ日本語の単語をウルドゥー語に定義してもらうことがよくあります。6歳の小学生に日本語の「自信」を定義してもらったら、「自分の心の声をいつもしっかり聞くこと」とウルドゥー語で答えてくれました。この解釈の深さに驚きつつ、当時、自信を失っていた私はとても勇気づけられました。

「教える」ことは、一方通行ではないと考えます。特に外国にルーツを持つ彼らは文化の違いもあって混乱しやすいため、しっかり話を聞いてあげないと勉強にも興味を持ってくれません。支援者として良い関係を築き、一緒にしっかりとした日本語の土台を作っていきたいと考えています。

#### 賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と 人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費 個人会員/1□ 3,000円 団体会員/1□ 10,000円

●賛助会員の特典○協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の 定期送付(年6回) #C.IIII III プレイベントや各種講座の案内及び参加費の減免 ○当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免 ○個人会員については協会と提携する旅行会社が指定 する国内外の旅行代金の一部割引

宮交観光サービス(株) ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び 当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の

#### 無償提供 入会方法

◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。





編集·発行 公益財団法人**宮城県国際化協会** 〒981-0914

仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号 宮城県仙台合同庁舎7階 TEL 022(275)3796 FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp



